

2（2）平成23年度と24年度の回答において顕著な変化を示した属性

（1）分析目的

生活実感、政策の重要度および市政への関心度それぞれについて、23年度と24年度の回答を比べて顕著な変化があったものを把握するために分析を行った。これらの顕著な変化の要因を分析することは、今後の政策や施策の進捗等を検討する上で参考となる。

（2）分析方法と図表の見方

「2（1）平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性」の手法と同じく「カイ二乗検定」によって分析した。有意確率の扱いも同様に1%未満のもの（*2個以上）を表で一覧に示し、さらにどのような変化があったかを図と文章で示した。

なお、項目ラベル内の（ ）内の数値は有効回答数であり、無回答は除いている。

①生活実感

「2（1）平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性」の生活実感分析と同じ手法により有意差と2年度の回答の変化の差を求めた。

23年度の回答と24年度の回答とを比べて、24年度の回答のほうが肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかというと思う」）の割合が増えた場合はプラスの値が得られ、否定的な回答（「そう思わない」と「どちらかというと思わない」）の割合が増えた場合はマイナスの値が得られることになり、プラスは↑、マイナスは↓でそれぞれ表した。この変化の差は、同一の質問について昨年度と比べて、肯定的な変化かあるいは否定的な変化かを示す目安となる。

②政策の重要度

各属性の2年度分の回答の割合の差を示した。

③市政への関心度

生活実感と同じ手法により分析した。

(3) 分析結果

以降には、有意差があったもののうち、特徴的なものを取り上げる。

①生活実感

24年度の回答は、23年度と比べて否定的な回答が増加したため、肯定的な回答の割合が増えた設問が3項目に対し、否定的な回答の割合が増えた設問は16項目となった。

各分類における分析結果の概要は以下のとおりである。

○政策分野別の回答の中で顕著な変化があったもの（19項目）

「建築物」が3項目で最も多かった。全体的にマイナスである中でも「学校教育」はすべてプラスであったことが特徴的である。

○市全体、世代別・性別の回答の中で顕著な変化があったもの（13項目）

高年層女性が5項目で最も多く、市全体と中年層男性が3項目で次いだ。

○居住区別の回答の中で顕著な変化があったもの（6項目）

下京区と伏見区で2項目、中京区と南区で1項目の顕著な変化があった。

②政策の重要度

「消防・防災」において若年層男性のみ顕著な変化があった。

③市政への関心度

顕著な変化はなかった。

「市民生活実感調査」は23年度に設問を一新したため、現時点では2年度分の変化を見た短期的な分析となっている。今後さらにデータを蓄積し、中長期的な経年変化を見ることで、より効果的な要因分析が可能になるとと思われる。

2(2) 平成23年度と24年度の回答において顕著な変化を示した属性(生活実感)

分析結果は見る側の視点に立ち、政策分野別、世代別・性別、居住区別の三つに分けて示しているが、政策分野別に示されている分析結果と次ページの世代別・性別および居住区別に示されている分析結果は同じ内容である。

【政策分野別】

分野	設問	有意差	属性	変化の差
人権・男女共同参画	Q8 暮らしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。	**	伏見区	↓0.51
市民生活の安全	Q23 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。	**	若年層女性	↓0.13
産業・商業	Q34 京都では、価値を高めるために工夫したもののづくりが行われている。	**	高年層女性	↓0.19
	Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。	**	高年層女性	↓0.22
観光	Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都の観光振興に協力的である。	**	中京区	↓0.32
		**	下京区	↓0.57
大学	Q51 京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	**	高年層女性	↓0.23
障害者福祉	Q66 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域で暮らしやすくなっている。	**	中年層男性	↓0.34
地域福祉	Q69 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。	**	高年層女性	↓0.37
	Q70 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。	**	市全体	↑0.03
学校教育	Q84 安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。	**	南区	↑0.39
	Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	**	中年層男性	↑0.41
景観	Q105 京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。	**	高年層女性	↓0.41
建築物	Q108 建物を新築するときは、建築ルールが守られている。	**	中年層男性	↓0.51
	Q110 地震や火災に強い建物が増えている。	**	市全体	↓0.12
**		下京区	↓0.27	
道と緑	Q116 災害時も安全に移動できる道路網ができています。	**	市全体	↓0.16
くらしの水	Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	**	高年層男性	↓0.20
	Q129 京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	**	伏見区	↓0.57

※変化の差…23年度と24年度の回答を比べて、肯定的な変化か否定的な変化であったかを示す目安である。

全体	**	***	北区	**	***
若年層男性	3		上京区		
若年層女性	1		左京区		
中年層男性	3		中京区	1	
中年層女性			東山区		
高年層男性	1		山科区		
高年層女性	5		下京区	2	
			南区	1	
			右京区		
			西京区		
			伏見区	2	

2(2) 平成23年度と24年度の回答において顕著な変化を示した属性(生活実感)

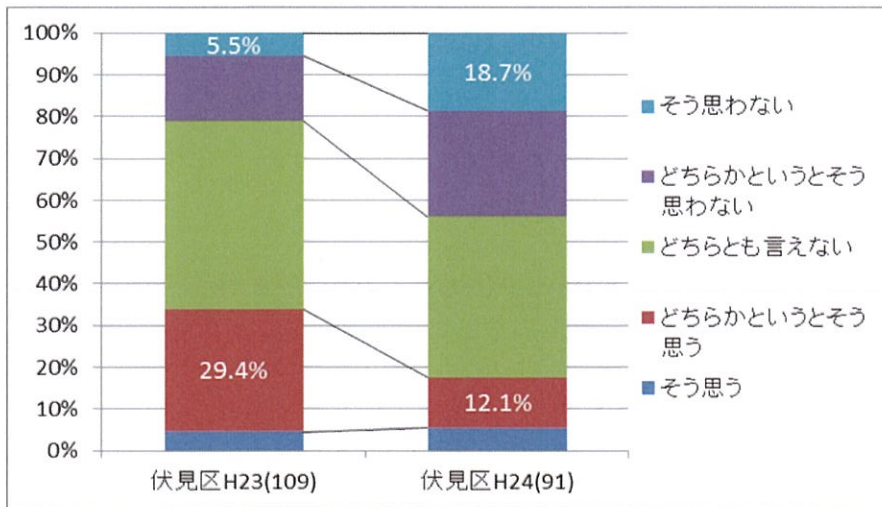
【世代別・性別】

属性	分野	設問	有意差	変化の差
市全体	地域福祉	Q70 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。	**	↑0.03
	建築物	Q110 地震や火災に強い建物が増えている。	**	↓0.12
	道と緑	Q116 災害時も安全に移動できる道路網ができています。	**	↓0.16
若年層 女性	市民生活の安全	Q23 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にさせるまちになっている。	**	↓0.13
中年層 男性	障害者福祉	Q66 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	**	↓0.34
	学校教育	Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	**	↑0.41
	建築物	Q108 建物を新築するときは、建築ルールが守られている。	**	↓0.51
高年層 男性	くらしの水	Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	**	↓0.20
高年層 女性	産業・商業	Q34 京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。	**	↓0.19
	産業・商業	Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な事業者が多い。	**	↓0.22
	大学	Q51 京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	**	↓0.23
	地域福祉	Q69 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。	**	↓0.37
	景観	Q105 京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。	**	↓0.41

【居住区別】

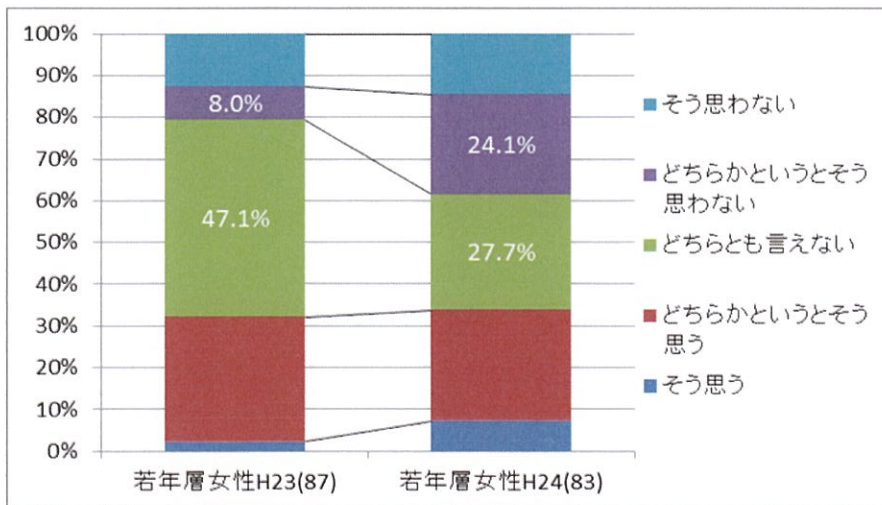
属性	分野	設問	有意差	変化の差
中京区	観光	Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都の観光振興に協力的である。	**	↓0.32
下京区	観光	Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都の観光振興に協力的である。	**	↓0.57
	建築物	Q110 地震や火災に強い建物が増えている。	**	↓0.27
南区	学校教育	Q84 安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。	**	↑0.39
伏見区	人権・男女共同参画	Q8 くらしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。	**	↓0.51
	くらしの水	Q129 京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。	**	↓0.57

Q8 暮らしのなかで互いの人権を尊重し合う習慣と行動が広がっている。



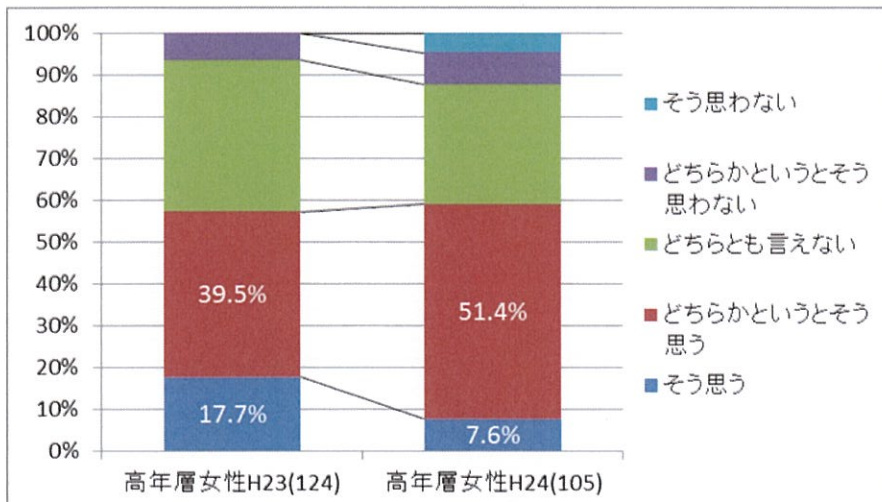
伏見区では、昨年度と比較し、「そう思わない」が増加
「どちらかというと思う」が減少

Q23 事故や犯罪を防ぐための自治会や警察、京都市などの取組により、安全にらせるまちになっている。



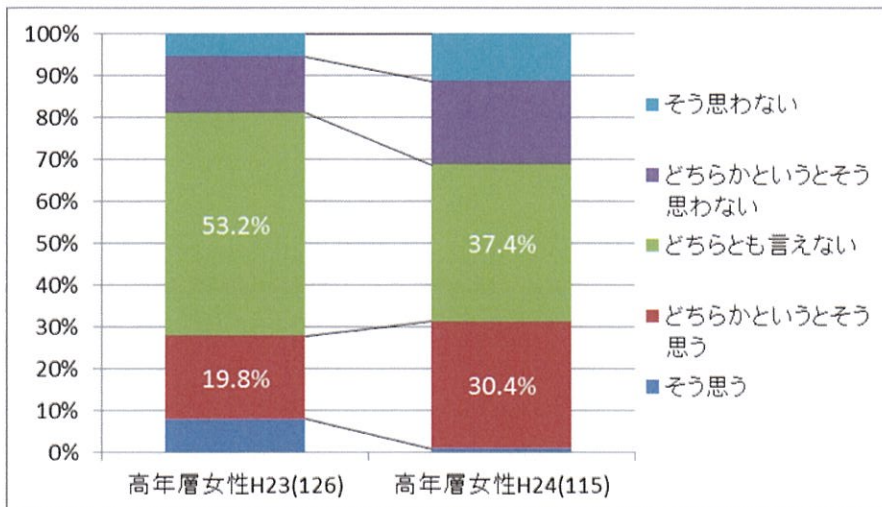
若年層女性では、昨年度と比較し、「どちらかというと思わない」が増加
「どちらとも言えない」が減少

Q34 京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。



高年層女性では、昨年度と比較し、「どちらかというと思う」が増加
「そう思う」が減少

Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。

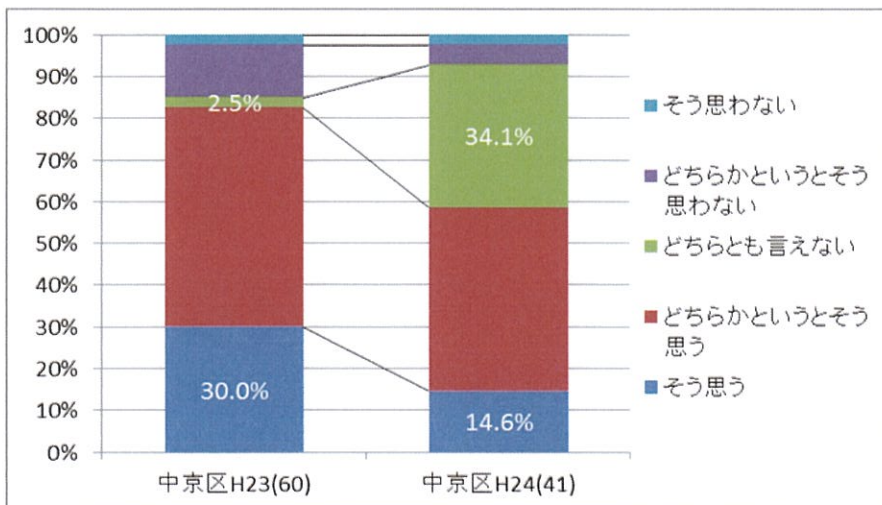


高年層女性では、昨年度と比較し、

「どちらかというと思う」が増加

「どちらとも言えない」が減少

Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都の観光振興に協力的である。

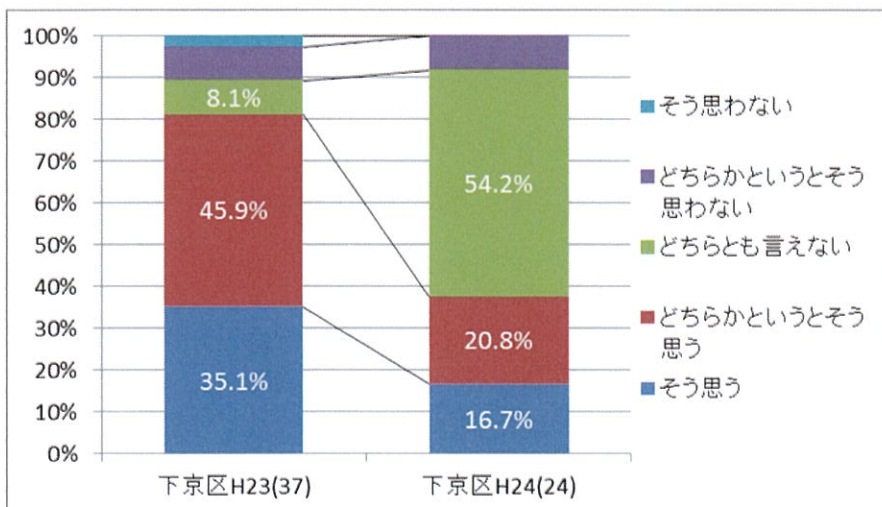


中京区では、昨年度と比較し、

「どちらとも言えない」が増加

「そう思う」が減少

Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都の観光振興に協力的である。

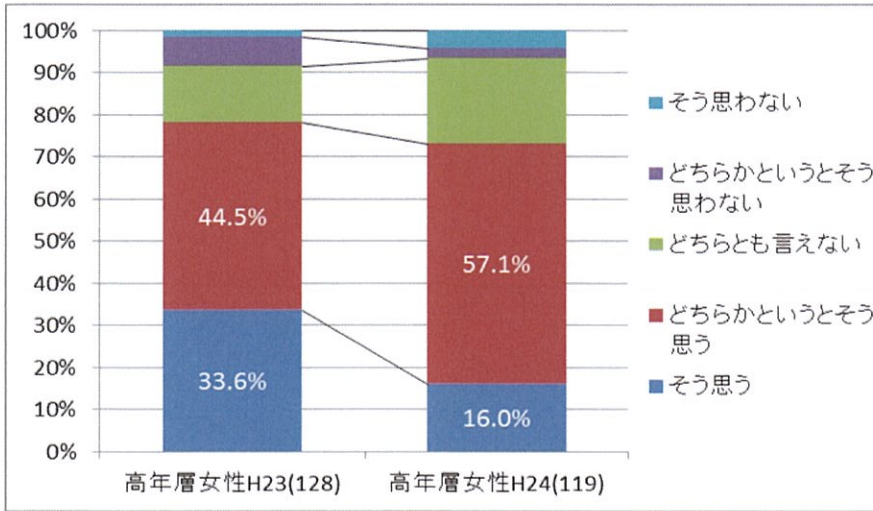


下京区では、昨年度と比較し、

「どちらとも言えない」が増加

「そう思う」と「どちらかというと思う」が減少

Q51 京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。

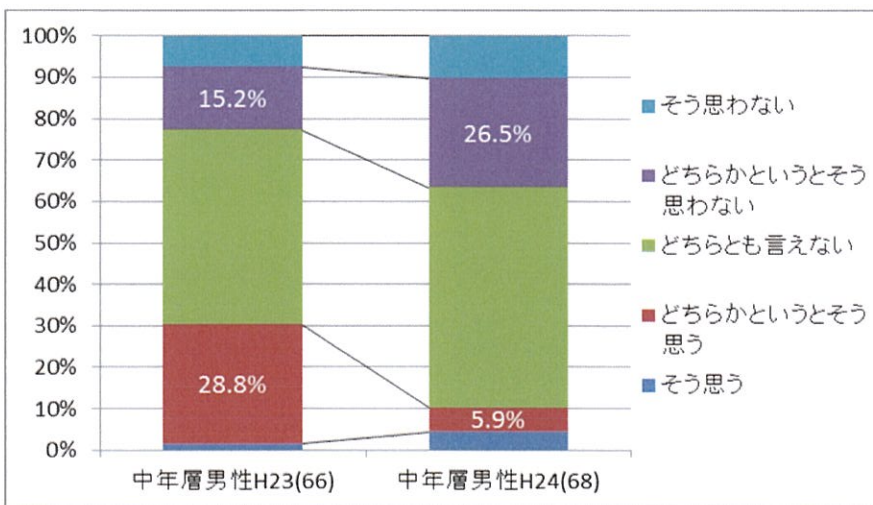


高年層女性では、昨年度と比較し、

「どちらかというと思う」が増加

「そう思う」が減少

Q66 障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。

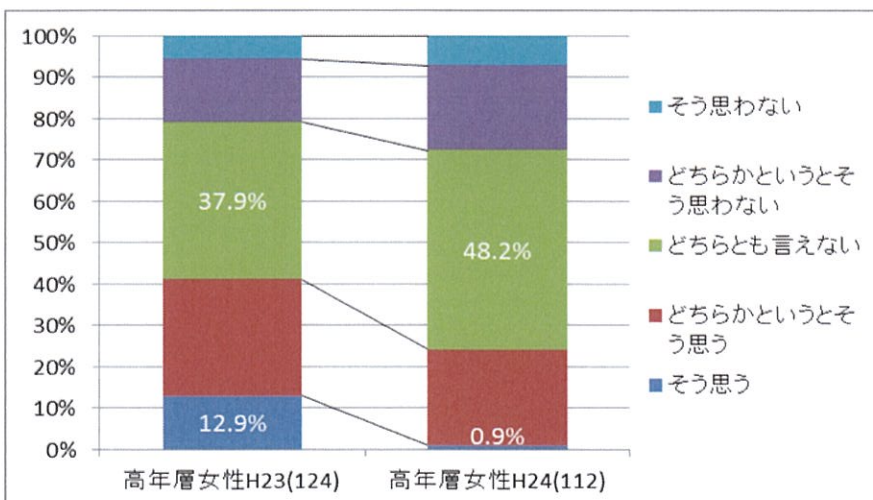


中年層男性では、昨年度と比較し、

「どちらかというと思わない」が増加

「どちらかというと思う」が減少

Q69 社会的に弱い立場にある高齢者や障害のあるひとが、地域ぐるみで見守られている。

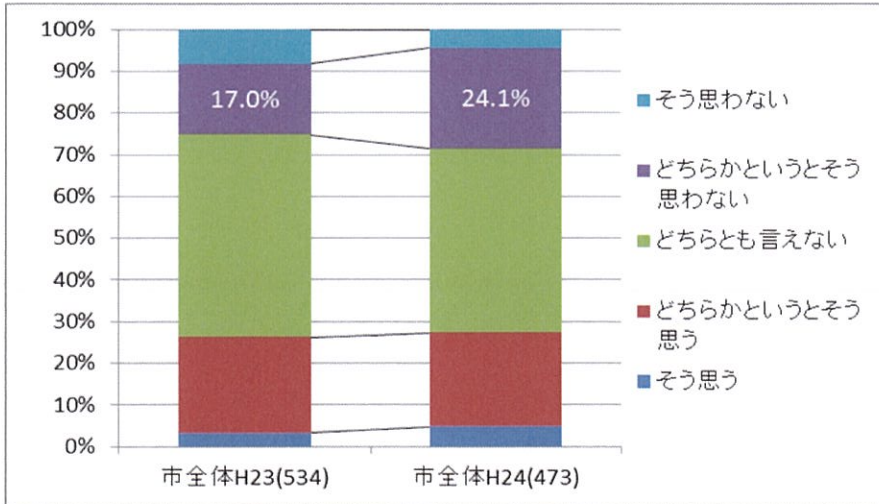


高年層女性では、昨年度と比較し、

「どちらとも言えない」が増加

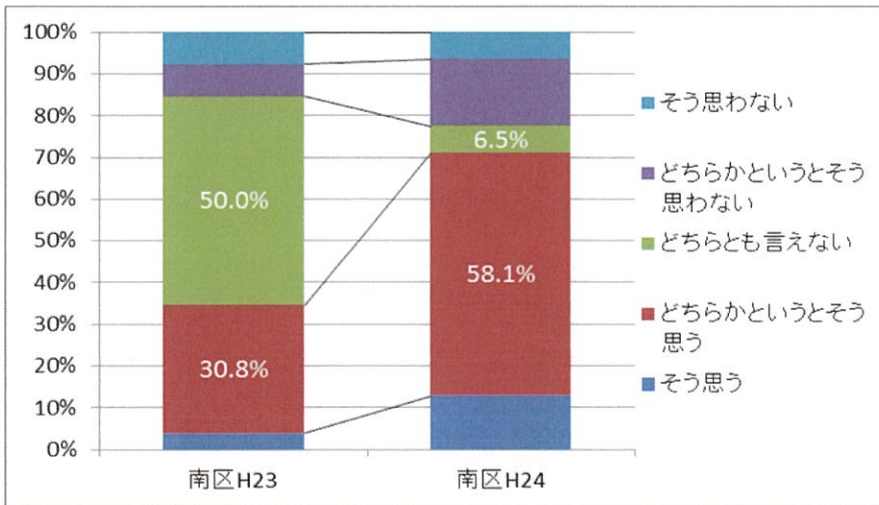
「そう思う」が減少

Q70 地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。



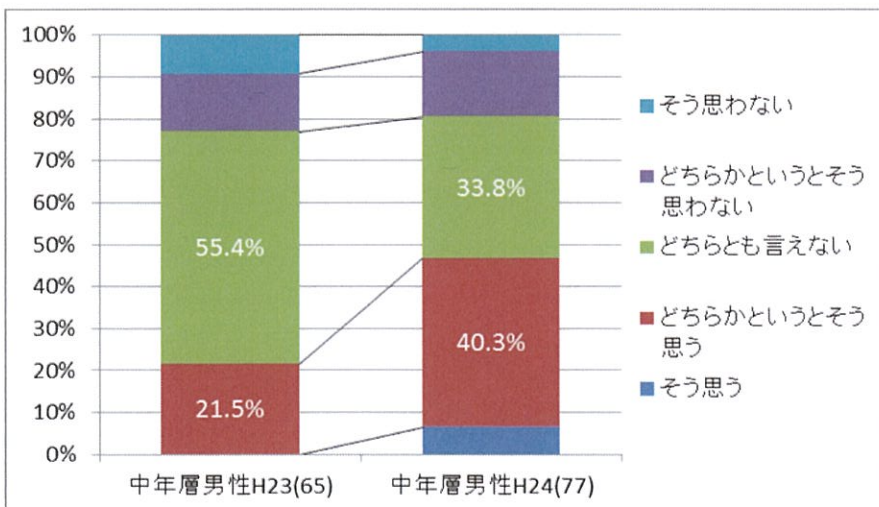
市全体では、昨年度と比較し、「どちらかというと思わない」が増加

Q84 安全快適な学校施設や最新の設備など、充実した教育環境が整っている。



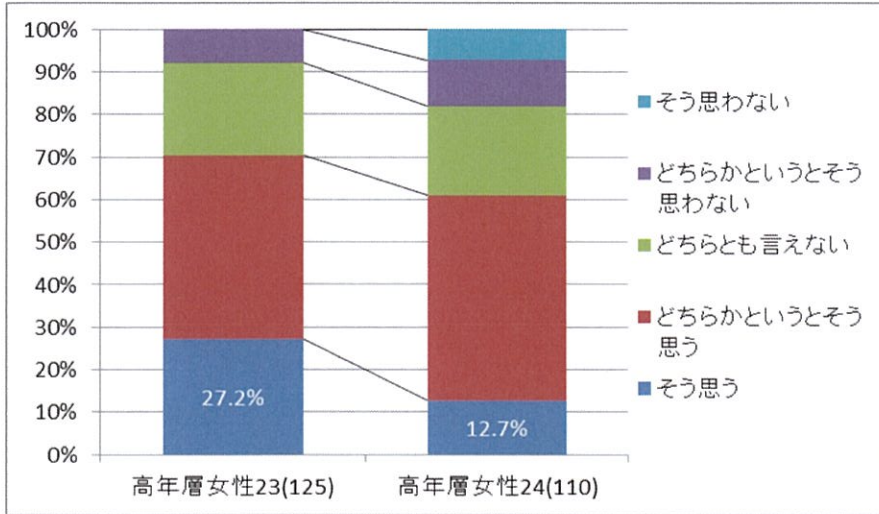
南区では、昨年度と比較し、「どちらかというと思う」が増加
「どちらとも言えない」が減少

Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。



中年層男性では、昨年度と比較し、「どちらかというと思う」が増加
「どちらとも言えない」が減少

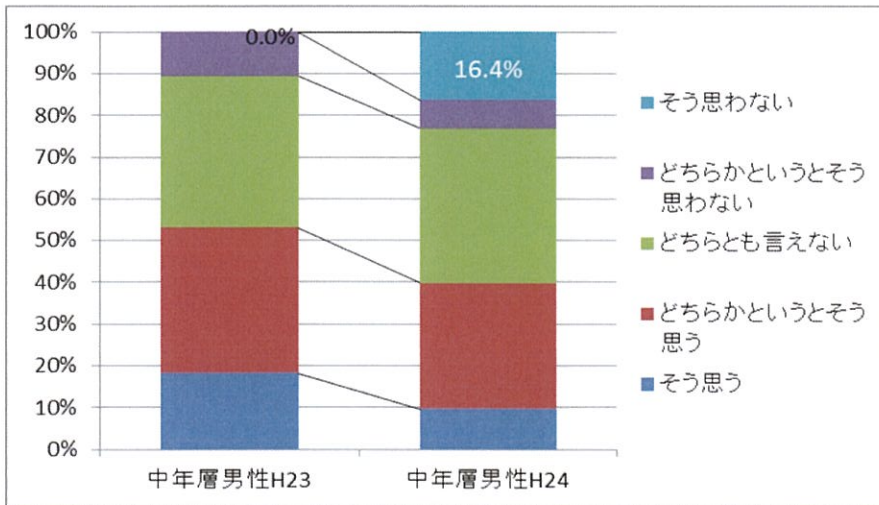
Q105 京都のくらしや文化を伝えている京町家が継承されている。



高年齢女性では、昨年度と比較し、

「そう思う」が減少

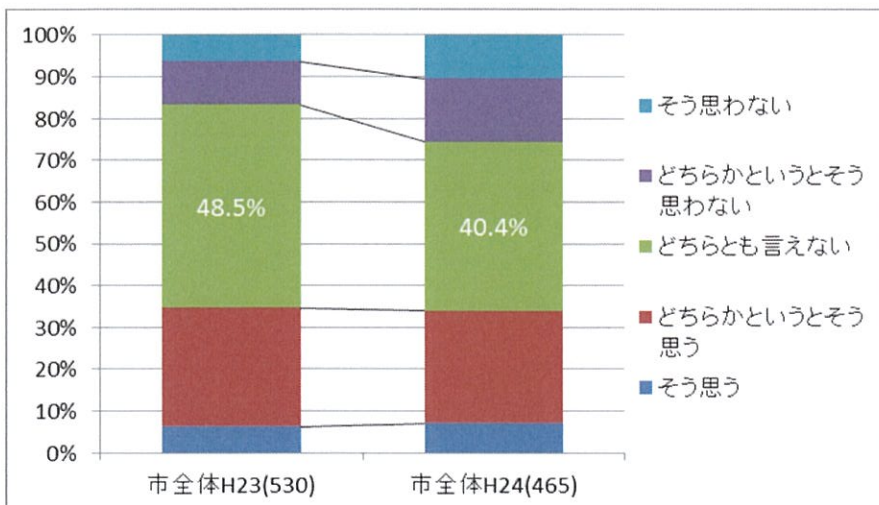
Q108 建物を新築するときは、建築ルールが守られている。



中年層男性では、昨年度と比較し、

「そう思わない」が増加

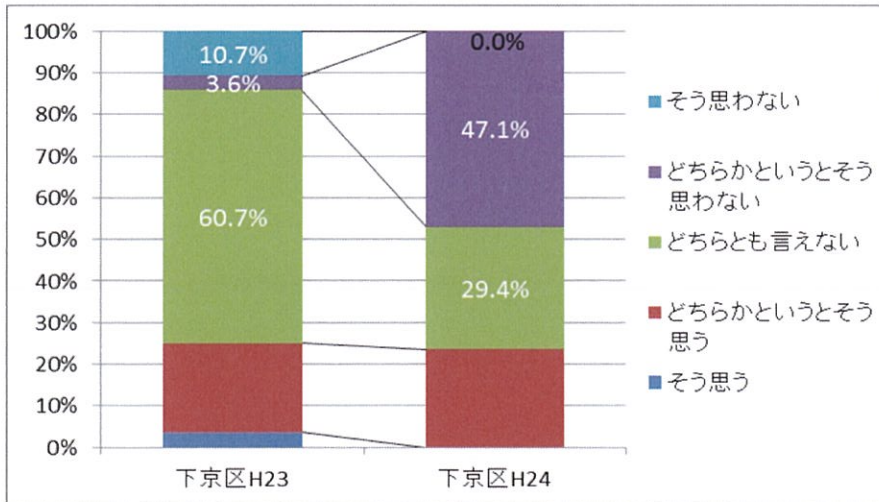
Q110 地震や火災に強い建物が増えている。



市全体では、昨年度と比較し、

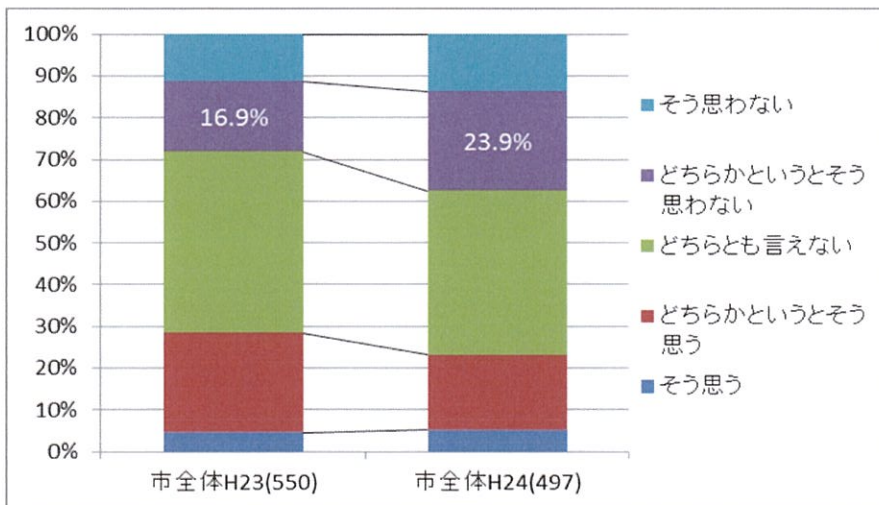
「どちらとも言えない」が減少

Q110 地震や火災に強い建物が増えている。



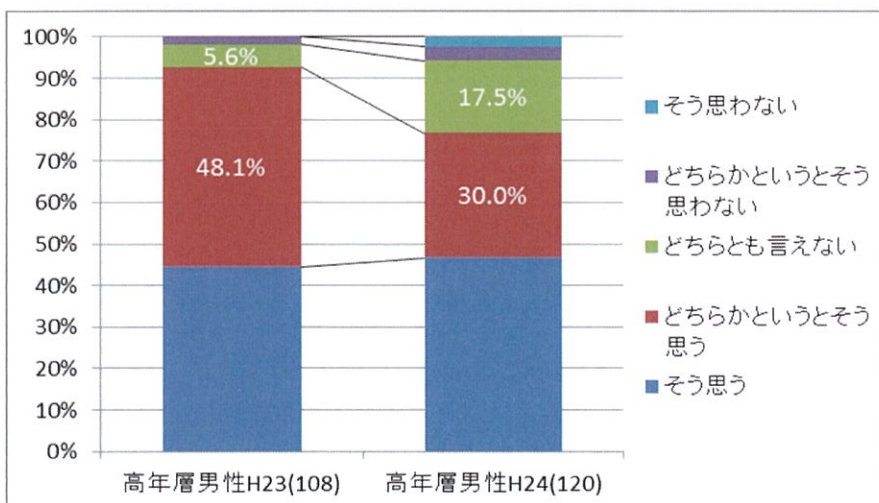
下京区では、昨年度と比較し、「どちらかというと思わない」が増加
「どちらとも言えない」と「そう思わない」が減少

Q116 災害時も安全に移動できる道路網ができている。



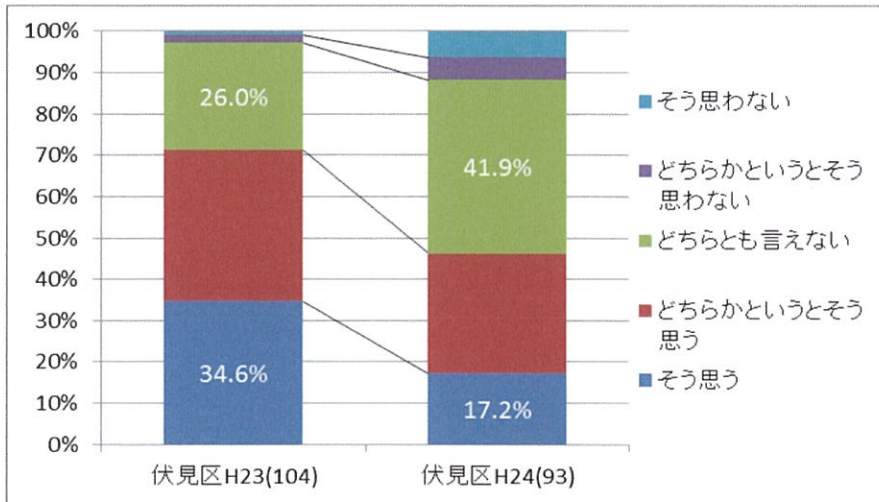
市全体では、昨年度と比較し、「どちらかというと思わない」が増加

Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。



高年層男性では、昨年度と比較し、「どちらとも言えない」が増加
「どちらかというと思う」が減少

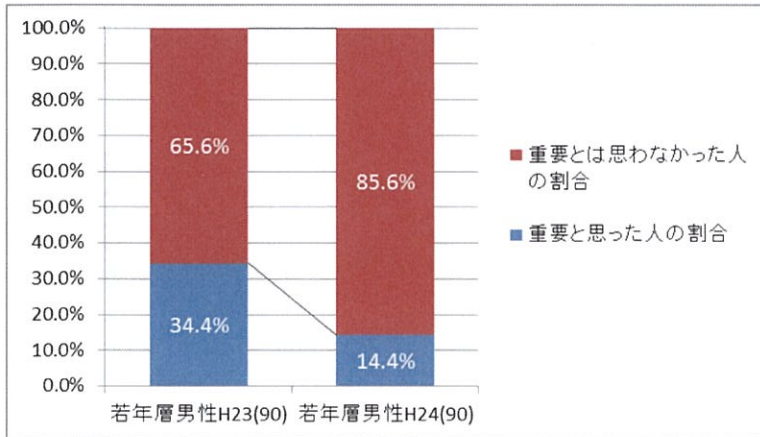
Q129 京都の上下水道は、経営が安定しており、将来も安心して使い続けることができる。



伏見区では、昨年度と比較し、「どちらとも言えない」が増加
「そう思う」が減少

2(2) 平成23年度と24年度の回答において顕著な変化を示した属性(政策の重要度)

分野	有意差	属性	変化の差
消防・防災	**	若年層男性	-20.0%



若年層男性では、昨年度と比較し、「消防・防災」が重要と思った人の割合が減少